

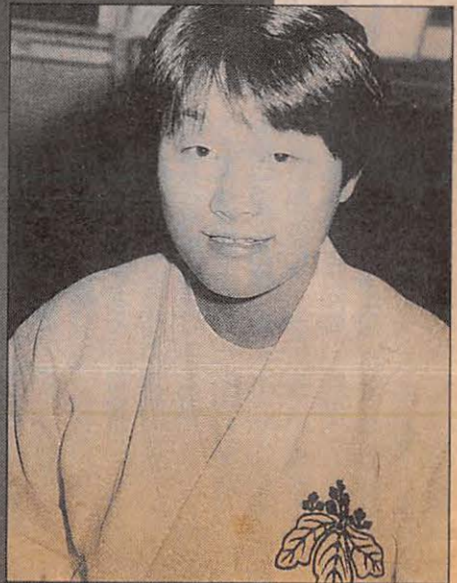
ふるさととは、

遠きにありて……

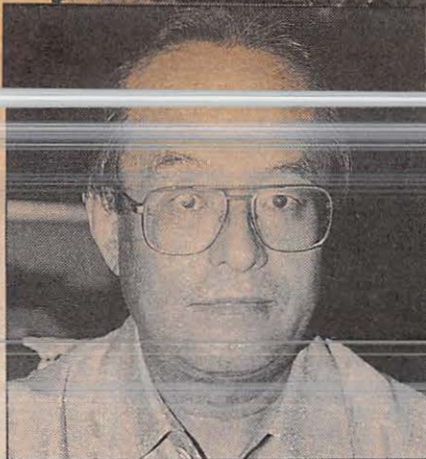
松本出身の各氏からメッセージをいただきました。



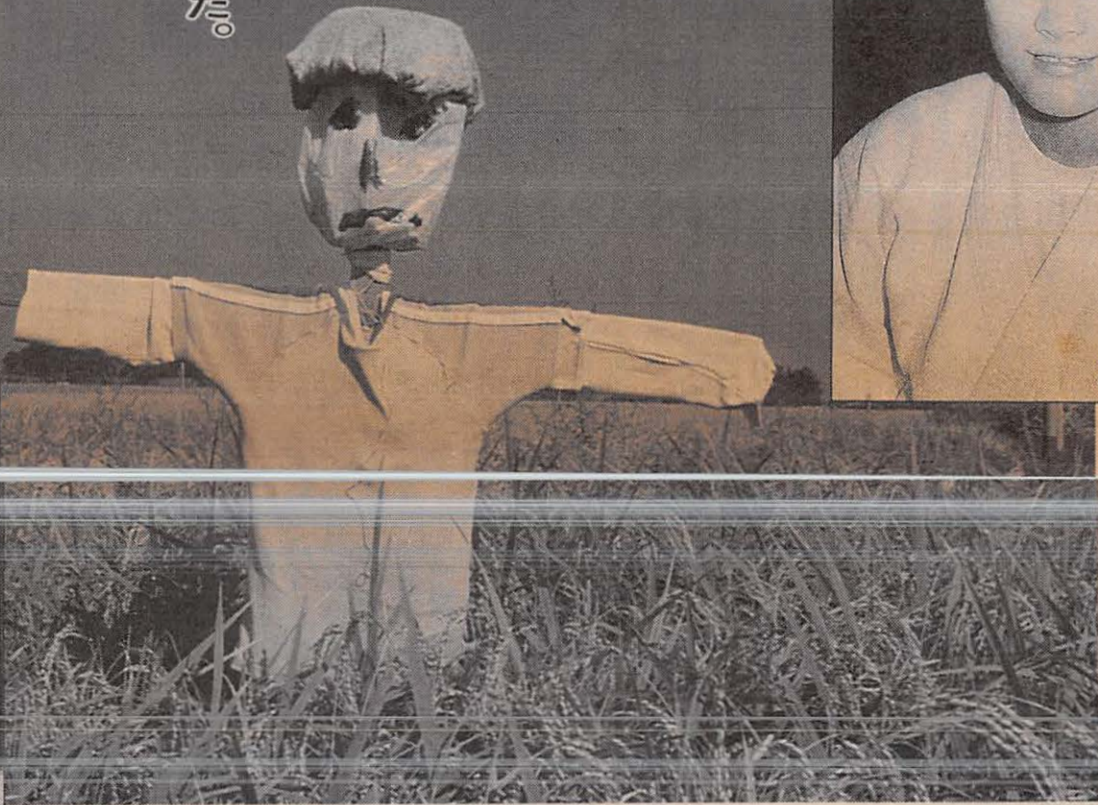
日本棋院九段(囲碁) 小林 覚 棋士



筑波大学2年 江崎 史子さん



東京外国語大学 中嶋 嶺雄 教授



中嶋 嶺雄 さん

松本市内の中町に育った私の農村での思い出といえば、稲刈りが終わるころに母や親戚の人たちと新米あたるの田んぼへイナゴ捕りに行ったことでしょうか。夢中になって捕まえたイナゴを、帰ってきてなべに入れる時がかわいそうだと思いましたが、あの新鮮な佃煮の香りは、私の「ふるさと」の味でもあります。私は現在でも夏休みや週末の執筆活動のために、時間をみつけては松本に帰るようにしています。神田の私の「望岳山荘」からのアルプスも、塩尻インターを下りて、東山山麓線から見る松本平の眺めも、私は大好きです。郷土の雄大な自然が、精神をリフレッシュしてくれるからです。今、米の輸入自由化問題が議論されていますが、私にはこの重要な問題が、あまりにも無機質に語られていることに不安を感じます。農業は国の基となる産業ですから、国際社会の一員としての自覚を持ちながらも、日本の伝統と自然との調和のとれた農業を続けていくべきではないかと思っています。

江崎 史子 さん



私の実家は征矢野なんですが、最近はなかなか帰る機会がないんです。でも松本は、私が育ったところ。高二で転校した千葉も、大学のある筑波も囲りに山が無いので、たまに帰った時は本当に安心します。柔道にも減量との闘いがありますが、栄養の基となる炭水化物は欠かせませんからごはんは毎日、きっちり食べます。自炊もしていますし、お米にはちょっとうるさい方なんです。

小林 覚 さん

プロ棋士を目指して東京に移り住んだのが小学校の一年でしたから、私の記憶の中の松本は、お城とか城山公園。そして、縄手通りで見た緑目の「ウナギ釣り」。釣ったウナギを職人があざやかな手つきでさばっていた光景が、今でも鮮明に残っています。なかなか松本を訪れる機会がないのですが、松本に行ったならば、一番に行きたいと思っているのは、縄手通りですね。

棋士として、囲碁中心の毎日ですが、私のふるすとは、やはり松本。たとえば高校野球の甲子園大会で松商学園が出場する時など、自分の出身地の代表というところで熱く応援します。地方に出た時にも「松本出身です」と素直に口から出ますし、美しい山々の自然がいっぱいの松本があることを忘れないで、うれしく思います。



今、自由化問題で、農業は大変だと聞きます。松本で農業に携わる方々はどうか自分たちの農業に信念をもって、諦めずに頑張ってください。これは、私の暮の信念でもあります。そして転機は必ず訪れることを忘れずにいてほしいと思います。

わたしたちはふるさとの水と緑を守ります

松本平農業協同組合

〒390 松本市南松本 1-2-16 TEL0263(26)1400代